

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2015 年 10 月 27 日 (火) 2 限 実施
後期① 考査
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。
- 6 センター過去問演習参加者は第 2 回分マークシートを社会科研究室前のボックスに提出のこと。

倫 理

(解答番号 [1] ～ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 20)

ユダヤ教の宗教的伝統の中に登場し、神の福音を宣教したのがイエスである。(a)律法主義に立つ当時のユダヤ教が、神をはるか天上の近寄りがない存在とみなしていたのに対し、イエスは、(b)神を父のように身近に感じながら、「時は満ち、[1] は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と語って、福音すなわち神の救いやめぐみが、すでに人々の身近にあると説いたのである。

イエスにとって、神は何よりも愛の神であった。彼は、「天の父は悪人にも善人にも太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも雨をふらせてくださる」と語った。そのような神の愛は、[2] という言葉で表現されるが、それは他者を生かす無差別、無償の愛である。

神を愛の神としてとらえたイエスは、神から与えられた律法の根本精神を、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、あなたの神である主を愛しなさい」と「隣人を自分のように愛しなさい」という (c)二つの言葉によっていいあらわした。つまり、愛によって人間を生かす神が人間に命じるのは、神への愛と (d)隣人愛であるというのである。さらに彼は、「[3] を愛し、迫害する者のために祈れ」と語って、隣人愛が、せまい仲間内の愛を越えなければならないと説いた。イエスは、「目には目を」の言葉で知られる従来の報復主義の原理に対し、愛の原理を道德の中心にすえたのである。

イエスのこのような活動は、ユダヤ教の指導者たちの反感を招くこととなった。律法を字義通り守ることに重点をおく彼らの目には、イエスの新しい教えが、神をけがすものに映ったからである。のみならずイエスは、指導者たちが、律法を守っていない人々を罪人として裁くのをみて、彼らをきびしく批判した。このためイエスはとらえられ、ユダヤ教の指導者とローマの総督に裁かれ、十字架刑で殺された。

しかし、処刑後まもなく、[4] を中心とするイエスの生前の弟子たちの間に、イエスは復活し彼らの前に姿をあらわしたとする復活信仰が生じた。そしてそこからつぎのような信仰が生まれた。イエスは救世主(キリスト)として遣わされた神の子であり、その犠牲的な死によって (e)贖罪をはたしたのち、神によってよみがえらされた。したがって、このキリストを信じる者は [A]、と。こうした信仰を核心としてキリスト教が成立した。イエス・キリスト、すなわち「イエスは救世主」という呼び名は、この信仰の核心を最も短い言葉で表現している。

問1 文章中の空欄 [1] ～ [4] に入る最も適切な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[1] ⎧ ① 神の裁き ② 最後の晩餐
 ⎨ ③ 世の終わり ④ 神の国

[2] ⎧ ① フィリア ② エロース
 ⎨ ③ アガペー ④ プロネーシス

- [3] [① 敵 ② 信徒
 ③ 友人 ④ 共同体

- [4] [① トマス ② ペテロ
 ③ パウロ ④ ヨハネ

問2 空欄 [A] に入る言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
[5]

- ① 罪を赦され、新しい生命に生きることができる
- ② 罪を赦され、煉獄から抜け出すことができる
- ③ 律法を守る苦しみから解放され、復活の希望を持つことができる
- ④ 律法を守る苦しみから解放され、永遠の命を得ることができる

問3 下線部(a) に関して、律法主義の内容として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 [6]

- ① 神との契約である律法の一言一句を大切にする考え。
- ② 律法の形式ではなく本質を重視すべきであるとする考え。
- ③ 律法にしたがうことによって神の恵みが与えられるとする考え。
- ④ 律法を守る事ができない者は天国から閉め出されるとする考え。

問4 下線部(b) に関して、聖書の放蕩息子のたとえについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [7]

- ① 弟は父から受け取った財産を持って遠い国に行き、商売に失敗して無一文となった。
- ② 無一文になった弟はもう一度、父の息子として養ってもらおうとして帰宅した。
- ③ 父は息子を見つけて憐れに思い、走り寄って抱きしめ、服をすぐに着替えさせた。
- ④ 兄は弟の帰宅を父と共に心から喜び、弟の生還を祝う宴を開いた。

問5 下線部(c) に関して、この二つの言葉についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [8]

- ① 洗礼者ヨハネの宣教の際に、これまでの律法に付け加える形でそれを示したものを、イエスが踏襲した。
- ② いずれの言葉も律法に示されてきたもので、イエスは特に大切な二つの律法としてそれを示した。
- ③ これまでの律法を完成させるために、イエスが弟子たちに新しい二つの律法を示した。
- ④ 古い律法を否定した神が、イエスを通して人びとに示した新しい教え。

問6 下線部(d) に関して、隣人愛を教えるイエスのたとえ話として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [9]

- ① 新しい葡萄酒と古い革袋のたとえ
- ② 放蕩息子のたとえ
- ③ 迷える子羊のたとえ
- ④ よきサマリア人のたとえ

問7 下線部(e)に関して、次の贖罪について述べた聖書の文中の空欄【ア】 【イ】に入る語の組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[10]

希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、【ア】な者のために死んでくださった。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれませんが。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。それで今や、わたしたちはキリストの【イ】によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

『使徒パウロのローマの信徒への手紙』5章5～9節

- ① 【ア】 忠実 【イ】 涙
- ② 【ア】 不信心 【イ】 涙
- ③ 【ア】 忠実 【イ】 血
- ④ 【ア】 不信心 【イ】 血

第2問 次の文章を読み下の問い（問1～問10）に答えよ。（配点 30）

イエスの死後、(a)ペテロたちは、エルサレムを中心として宣教活動を展開した。これが原始キリスト教の始まりである。やがてキリスト教は、地中海世界の人々の間にもひろまっていったが、その過程でキリスト教の教義の確立と伝道の両面で大きな働きをしたのが、ユダヤ人パウロである。彼はもともと [11] 派に属し、原始キリスト教会の信徒に対するユダヤ教による迫害の先頭に立っていた。しかし、その途中に劇的な回心を体験し、やがて一転して (b)異邦人に対するキリスト教伝道の先頭に立つことになった。

ユダヤ教徒としてのパウロが善きおこないにひたすら励んで知ったことは、罪の力に対する自己の無力であった。この苦しみからパウロを解放したのが、イエスの死を贖罪の死とみる信仰であった。彼はイエスの死のうちに、人からは何もとめずに、人を罪から自由にする神のめぐみをみた。こうしてパウロは、罪に支配された古い自分からの解放を味わったのである。彼は信仰の核心を「人が [12] とされるのは、律法のおこないによるのではなく、信仰による」といいあらわし、神のめぐみを信じる人々は新しい命を約束されると説いて、信仰と [13] をもってこの世に生きることをすすめた。

地中海世界に浸透したキリスト教は、はじめローマ帝国の迫害の対象となったが、4世紀末には、逆に国教の地位を占めることになった。この間、そしてそれにつづく時代に、(c)教父とよばれる人たちが、ギリシャ哲学を用いてキリスト教的真理を説明し、神学の確立に貢献した。こうして、神は何もないところから世界を創造したとする無からの創造の教義、アダムの罪はすべての人におよんでいるとする [14] の教義、また「父なる神」と「子なるキリスト」と「聖霊」の三者は一つであるとする (d)三位一体の教義が確立した。

中でも北アフリカ出身のアウグスティヌスは最大の教父とみなされている。恩寵の博士とよばれる彼は、原罪を負っている人間は、(e)神の恩寵によらなければ罪からの救いはおろか善を志すこともできないと説き、この恩寵のなかだちをするのが (f)神の地上の代理者としての教会であると説いて、(g)カトリック教会の権威の確立に大きな役割をはたした。彼は信仰の内容を [15] の考え方を用いていいあらわし、ギリシャ的な真理への愛は、キリスト教の教える神に出会うことではじめて満たされると考えた。そして知恵、勇気、節制、正義のギリシャの四元徳のうえに、パウロの説く信仰、[13] のキリスト教の三元徳をおいた。

中世になると、西ヨーロッパ全体がキリスト教化され、ローマ・カトリック教会は絶大な権威をもつようになった。この時期、(h)哲学の研究はもっぱらキリスト教教義の論証、体系化に向けられた。この哲学は、教会や修道院に付属する学校（スコラ）で研究されたので (i)スコラ哲学とよばれる。

最大のスコラ哲学者は13世紀に出たトマス・アクィナスで、彼は、[16] 哲学を用いてキリスト教の信仰内容を理性的に説明しようとした。彼にとって、神学は哲学と矛盾するものではなかった。そして神の恩寵も自然の秩序を乱すものでなく、かえってこれを完成するものであった。また彼は、このように神、人間、自然を調和的にみる立場から、人間の理性に啓示された神の法が自然法であるとした。

問1 文章中の空欄 [11] ～ [16] に入る最も適切な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [11]

[11]	①	パリサイ	②	ゼーロータイ
			③	エッセネ	④	サドカイ

- [12] [① 罪 ② 善
 [③ 義 ④ 偽
- [13] [① 平等と自由 ② 希望と自由
 [③ 平等と愛 ④ 希望と愛
- [14] [① 化体 ② 贖罪
 [③ 秘跡 ④ 原罪
- [15] [① ネオプラトニズム ② アヴェロエス
 [③ アリストテレス ④ アヴィケンナ
- [16] [① ネオプラトニズム ② アヴェロエス
 [③ アリストテレス ④ アヴィケンナ

問2 下線部(a)に関連してペテロたちが教会を形成し、宣教を開始するきっかけとなった出来事についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[17]

- ① 主イエスは、弟子たちと話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。
② 炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。
③ 一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。
④ ペテロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。

問3 下線部(b)に関して、異邦人が意味する対象として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[18]

- ① キリスト教徒以外の人びと
② ユダヤ人以外の諸民族
③ ギリシア語を話さない民族
④ 助けを必要とするすべての人びと

問4 下線部(c)に関連して、ラテン教父テルトゥリアヌスの言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[19]

- ① 哲学の真理と信仰の真理は別物である
② 不合理なるがゆえに我信ず
③ 知らんがために我信ず
④ 理性と信仰は調和する

問5 下線部(d)に関して、三位一体の教義の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[20]

- ① 神は父と子と聖霊の三つの実体を持ち、一つ一つが独立している。
② 神は父と子と聖霊の三つの実体をもつが、その本質は一つである。
③ 神は父と子と聖霊の三つのペルソナを持ち、一つ一つが独立している
④ 神は父と子と聖霊の三つのペルソナをもつが、本質は一つの実体である

問6 下線部(e)に関連して、神の恩寵の意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[21]

- ① 罪の許し
- ② 聖霊の恵み
- ③ 永遠の命
- ④ 復活の希望

問7 下線部(f)に関連して、ローマ・カトリックにおいてその後継者がローマ教皇であるとされる、初代教皇として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[22]

- ① フランシスコ
- ② パウロ
- ③ ヨハネ
- ④ ペテロ

問8 下線部(g)に関連して、アウグスティヌスが教会の権威を擁護して著した作品として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① 神学大全
- ② 神の国
- ③ 教会史
- ④ ヘルメス文書

問9 下線部(h)の哲学研究に関連して、中世の神学者ペトルス・ダミアニに関する記述中の空欄 [24] に入る語として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

ancilla theologiae とは、中世の神学者ペトルス・ダミアニ（1007—72）が、神学に対する哲学の関係を表すのに用いた用語。当時、聖書の権威に対して、理性の権威を強調した弁証学という哲学的な学問があった。これに対して彼は、弁証学がキリスト教の神秘を解明するために利用される場合の基準をつくり、弁証学は女主人に仕える [24] のように、神学に隷属するものでなければならぬとした。

- ① 女奴隷
- ② 婢
- ③ 貴族
- ④ 侍女

問10 下線部(i)に関連して、スコラ哲学の父と呼ばれる人物として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[25]

- ① アベラール
- ② アンセルムス
- ③ オッカム
- ④ ロスケリヌス

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 20）

古代インドでは、ブッダの出現するはるか以前、紀元前 1500 年ごろからこの地に侵入してきた (a) アーリヤ人によって、(b) バラモン教を中心とする独自の文化が形成されていた。ここでは祭儀が重視され、司祭者であるバラモンは、彼らの築いた (c) きびしい身分制度の最上位に位置づけられ、さまざまな特権を与えられていた。紀元前 7～6 世紀ごろになると、この祭儀中心の初期バラモン教に対し、人間の内面に重きをおく新しい思想が生じ、(d) ウパニシャッド哲学を生み出した。このウパニシャッド哲学は、その後さまざまな形で展開するインド思想の母体となっている。

ウパニシャッド哲学ではつぎのように説く。人間の魂はその生存中の [26] によって生じるさまざまな運命にしばられており、これは死によっても断ち切られることはない。人間は死ぬと、それぞれの [26] にふさわしい生きものの姿をとって再び生まれ変わる。こうして無限に生死をくり返し、その間、心の安らぎを得ることがない。これを輪廻転生という。それではこの輪廻の苦しみから解放されるためにはどうすればよいのか。それは、宇宙の諸現象の根底にあってそれ自身はけっして変化することのない絶対的な [27] と、われわれ自身の奥底にひそむ真実の自己とが、もともと一つであることを自覚することである。なぜなら、すべてのものは [27] から生まれたものであるから、われわれの根底にあるものも、この [27] にほかならないからである。このように、真実の自己を自覚し、梵我一如の境地に到達するとき、われわれははじめて輪廻を絶ち、一切の苦しみから解放された境地にはいる [28] ができるのである。

このウパニシャッド哲学が花開いたのち、その精神を背景としつつも、バラモン教の伝統にとらわれず、みずから自由に思索し修行する (e) さまざまな思想家がつぎつぎとあらわれた。ジャイナ教の開祖となった [29] や、仏教の開祖となったゴータマ・シッダッタもこうした思想家の一人である。ジャイナ教は、生きものを傷つけたり殺したりしてはならないとする [30] を倫理の中心にすえ、きびしい苦行と禁欲の実践を説いた。

問1 文章中の空欄 [26] ～ [30] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [26] [① 悪 ② 業
 [③ 役 ④ 法

- [27] [① サンサーラ ② アーリマン
 [③ ブラフマン ④ アートマン

- [28] [① 発心 ② 涅槃
 [③ 入滅 ④ 解脱

- [29] [① アーナンダ ② ラーフラ
 [③ ヴァルダマーナ ④ ウパーリ

- [30] ⎧ ① アヒンサー ② ブラフマチャリヤー
 ⎨ ③ サティヤグラハ ④ スワラジ

問2 下線部(a)に関して、アーリヤ人についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[31]

- ① イランに進出したアーリヤ人がイスラム教を創始した。
- ② インドのパンジャブ地方で『リグ・ベータ』を編纂した。
- ③ インダス文明を築き、後のヴァルナとなる階級制度を作った。
- ④ ベータ語、サンスクリット語はセム語系の言語系統である。

問3 下線部(b)に関して、バラモン教の神々についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[32]

- ① ヤマはもともと死神だったが、仏教に取り入れられ閻魔となった。
- ② ヴェータの最高神はインドラで、仏教では帝釈天という。
- ③ アスラは神々に敵対する悪魔で、仏教では阿修羅という。
- ④ バルナは水の神として仏教に取り入れられ弁財天となった。

問4 下線部(c)に関して、庶民階級をあらわすヴァルナとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[33]

- ① アヴァルナ ② シュードラ ③ ヴァイシャ ④ クシャトリヤ

問5 下線部(d)に関して、「ウパニシャッド」が意味する語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[34]

- ① 賛歌書 ② 祭祀書 ③ 呪文書 ④ 奥義書

問6 下線部(e)に関して、この時代の自由思想家たちの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[35]

- ① 彼らはバラモン教を新しく解釈し直し、宗教改革者として人びとを導いた。
- ② 仏教を創始したゴータマ・ブッダを中心に六師外道と呼ばれる学派を形成した。
- ③ 道徳や宗教を合理的に考察した彼らの思想から民主主義が生まれた。
- ④ 貨幣経済が深く浸透する中、バラモン教祭式主義に反する潮流が大きく台頭してきた。

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～問10)に答えよ。(配点 30)

釈迦が悟り、人に説いたところの [A] とは何か。

[36] について後には、無常と直接結びつけて、永遠不変な実体のないことと解釈され、空(中身のないこと)と同義とされた。理論的には、無常であり、[36] であるのがものの真実の姿で、それを認めぬところに苦が生じるということになる。この苦の滅が [37] 寂静の表すところで、[37] は具体的には苦悩を起こす根源たる欲望、執着の炎が鎮火し寂静、清涼となった状態と説明される。

同じ内容を組織的に説いたのが、四諦である。教理上の説明を加えると、(1)苦諦：人生には生老病死の四苦のほか、愛しい人に別れ、怨み憎しみある者に出会い、求めるものは得られず、(a)この身は無常な五蘊の集合にすぎない、という合計8種の苦悩がある。

(2) [38] 諦：この苦を起こすもの、つまり苦の原因としては、(b)煩惱と総称される心のけがれがある。無知とは真実を知らないこと [39] で、ときにはこれが悪の根源とみなされる。欲望や執着はすべてこの無知の結果おこるとみるのである。(3)滅諦：苦の滅、[37] 寂静が理想であること。これは無知がなくなったとき、つまり真実を知ったとき、悟ったときに実現する。(4)道諦：この、苦の滅を達成するために実践すべき正しい道で、8項ある。すなわち、(ア)正しい物の見方、(イ)正しい心のもち方、(ウ)正しい言葉遣い、(エ)正しい行動——不殺生、不偷盗などの戒を守る、(オ)正しい生活、(カ)正しい努力、(キ)正しく教えを憶念する、(ク)正しい禅定の修習。

以上の四諦は苦因→苦、道の実践による苦因の滅→苦の滅という2種の互いに相反する方向の因果関係を含む。前者は迷いの生ずる方向の因果で、後者は悟りに至る因果である。この因果関係が広く [40] と呼ばれる理で、総じていえば「AがあればBがある。Aが生ずるからBが生ずる。AがなければBはない。Aが滅するからBが滅する」という形式になる。これを苦因→苦という視点で具体的に説いたのが、[41] である。

問1 文章中の空欄 [36] ～ [41] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[36] [① 無明 ② 無縁
③ 無記 ④ 無我]

[37] [① 入滅 ② 解脱
③ 涅槃 ④ 菩提]

[38] [① 集 ② 縁
③ 因 ④ 知]

[39] [① 無我 ② 無常
③ 無記 ④ 無明]

[40] [① 因果応報 ② 自業自得
③ 善因善果 ④ 因縁生起]

- [41] ⎧ ① 四法印 ② 十二因縁
 ⎩ ③ 八苦 ④ 六道

問2 空欄 [A] には、次の説明文中の空欄にも共通する語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[42]

インドの宗教、思想、ないし仏教の重要な概念で、仏教では [A] と漢訳される。このことばは、「保つ」「支持する」を意味する動詞の語源 dhr - から派生し、そうした作用を実体化した名詞で、「保つもの」「支持するもの」を原義とする。仏教では、「任持自性(にんじじしよう)・軌生物解(きしようもつげ)」、すなわち固有の性質を保ち、ものごとの理解を生じさせるもの、という語源解釈が行われている。

- ① 律 ② 法 ③ 経 ④ 論

問3 下線部(a)に関して、五蘊についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[43]

- ① 色とは意識の心理作用のことである。
② 受とは人間の感受作用のことである。
③ 想とは人間の意志作用のことである。
④ 行とは人間の表象作用のことである。

問4 下線部(b)に関して、煩惱についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[44]

- ① 三毒の一つ、瞋とはむさぼりの心である。
② 原語のサンスクリット語クレーシャは「汚れた心」「苦しむ心」を意味する。
③ 三毒の一つ、貪とは無知のことである。
④ 三毒の一つ、癡とはにくしみの心である。

問5 文中の空欄 (ア) ～ (ク) のうち、(エ) (オ) (ク) の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。[45]

- ① (エ) 正命 (オ) 正業 (ク) 正定
② (エ) 正命 (オ) 正定 (ク) 正業
③ (エ) 正業 (オ) 正命 (ク) 正定
④ (エ) 正業 (オ) 正定 (ク) 正命
⑤ (エ) 正定 (オ) 正業 (ク) 正命
⑥ (エ) 正定 (オ) 正命 (ク) 正業

問6 五戒についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[46]

- ① アヒンサーはジャイナ教とともに仏教でも重視されている。
② いつわりを語らないことも五戒のうちの一つである。
③ 五戒は出家修行者が守るべき自ら心に誓って順守する徳目である。
④ 仏教では飲酒は禁じられている。

問7 仏教における慈悲についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[47] (1997年センター本試験より改題)

- ① 慈悲とは、生命あるものすべてをいつくしみ、あわれむ心である。この心は、無我の立場や空の教えと不可分の関係にある。
- ② 慈悲とは、生命あるものすべてをいつくしみ、あわれむ心である。この心は、自分一人の悟りを求めて修行する立場において見失われがちであった。
- ③ 慈悲とは、生命あるものすべてをいつくしみ、あわれむ心である。この心は、すべての人の救済を第一に目指した菩薩のうちに理想化された。
- ④ 慈悲とは、生命あるものすべてをいつくしみ、あわれむ心である。この心は、仏教教団内に戒律と個々人の修行を重視する傾向を生み出した。

問8 仏教の四大聖地に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]

- ① ブッダガヤでシッダッタはシュッドーダナとマーヤーの間に王子として生まれ育ち、何不自由なく暮らしたといわれる。
- ② サールナートで、菩提樹の木陰で瞑想することによってシッダッタは悟りを開き、仏陀となった。
- ③ カピラバストゥで、仏陀は五人の比丘たちに対して初めての説法を行い、苦しみの原因と解決方法について説いた。
- ④ クシナガラで、仏陀はサラソウジュ(娑羅双樹)の間に、頭を北に向け右脇を下につけて入滅したとされる。

問9 ゴータマ・ブッダの生涯についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[49]

- ① 城の東・西・南・北の門から外出しようとして老人、病人、死人、出家者に遭遇し、自分の進むべき道を予見した。
- ② 愛馬カンタカと御者チャンダカを従えて城を脱出し、6年苦行に励んだが得るところなく、村娘ヤショーダラーの提供する乳粥を食べた後、修行方法を変えた。
- ③ 彼の従弟とされ、のちに彼に離反するデーバダッタ(提婆達多)からは狂象をけしかけられ、祇園精舎ではバラモンたちから女性と密通しているとの虚偽の告発がなされた。
- ④ 彼の教団では僧の順位は出身階級に関係なく、出家後の年数で決められた。真のバラモンとは生れによるのではなく、行いによると考えた。

問10 ゴータマ・ブッダの遺骨を納めた仏塔に由来する仏具として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 位牌 ② 卒塔婆 ③ 厨子 ④ 数珠

これで問題は終わりです。